



2021年12月7日

各位

会社名 株式会社今仙電機製作所  
 代表者 代表取締役 櫻井 孝充  
 社長執行役員  
 (コード番号: 7266 東証・名証第一部)  
 問合せ先 グローバル経営事業本部 井上 達嗣  
 執行役員  
 TEL 0568-67-1211

### 新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月に予定されている東京証券取引所の市場区分の見直しに関して、本日プライム市場を選択する申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の移行基準日におけるプライム市場の上場維持基準の適合状況は、以下のとおりとなっており、「流通株式時価総額」につきましては、80.9億円と適合しておりません。

当社が、プライム市場に移行することは、当社の企業価値を向上させ、持続的成長に向けた事業の変革において必須であるとの考えから当社は、流通株式時価総額に関し、上場維持基準を充たすための施策に取り組んでまいります。

なお、計画期間については、下記計画書に記載した当社の具体的な取組を掲げた「中長期経営計画2029」（2022年3月期～2030年3月期）の中間年度となる2026年3月期末といたします。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式 比率 (%)	1日平均 売買代金 (億円)	時価総額 (億円)
当社の状況 (移行基準日時点)	—	111,299 単位	80.9 億円	47.4%	0.38 億円	—
上場維持基準	—	20,000 単位	100 億円	35%	0.2 億円	—
計画書に 記載の項目	—		○			—

※当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

#### 2. 上場維持基準の適合に向けた取り組みの基本方針、課題及び取組内容

プライム市場上場維持基準の充足に向けた「流通株式時価総額」の向上にかかる取組の基本方針、課題及び取組内容につきましては、添付の「株式会社 今仙電機製作所 新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」に記載のとおりです。

以上

株式会社 今仙電機製作所

新市場区分の上場維持基準の  
適合に向けた計画書



2021年12月7日

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間	: 3
2. 現状の課題	: 4
3. 上場維持基準適合に向けた基本方針	: 5
4. 具体的な取組内容	
(1) 課題に対する取組	: 6
(2) 企業価値の向上に向けた取組	: 7-11
(3) 市場認知度・評価の向上に向けた取組	: 12-15

## 【上場維持基準の適合状況】

当社の移行基準日時点における**プライム市場**の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりです。「**流通株式時価総額**」については基準を充たしておりません。

	当社の状況 (移行基準日時点)	上場維持基準
流通株式時価総額	<b>80.9</b> 億円	<b>100</b> 億円

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

## 【計画期間】

**中長期経営計画2029** (2021～2029年度) フェーズ2 (2024～2026年度) の中間年度となる、「**26年3月期末**」までに、上場維持基準を充たすよう各種取り組みを進めてまいります。

	区分	課題
流通株式時価総額の向上	企業価値の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車業界の100年に一度の大変革期およびグローバル化等外部環境の変化</li> <li>・シート事業に偏った事業構造</li> </ul> <p>⇒環境変化を適切に捕捉し、持続的成長が可能となるよう変化に強い経営体質構築が必要</p>
	市場認知度・評価の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新市場における要求事項への対応</li> <li>・知名度や注目度が不足</li> </ul> <p>⇒適正にご評価いただくための体制強化や活動の強化が必要</p>

## 【基本方針】

### (企業価値の向上)

- ① 中長期経営計画2029を推進し、自動車以外の事業ドメインを拡大します
- ② 各事業ドメインにおいてポートフォリオ分析を行い、
  - シート事業においては、持続的な成長に向けた取組
  - 電子事業においては、車両動向に沿った製品開発の促進
  - 新事業においては、自動車部品以外の領域で事業の確立を推進します
- ③ 各事業において、お客さまとの関係を強化し盤石な事業基盤を構築します

### (市場認知度・評価の向上)

- ④ ESG経営推進しコーポレートガバナンス体制を強化します
- ⑤ IR・PR活動を積極的に実施します

**これらを確実に推進することで「流通株式時価総額の向上」を図ります**

	区分	課題	取組
流通株式時価総額の向上	企業価値の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車業界の100年に一度の大変革期及びグローバル化にともない外部環境の影響を受けるため、<b>環境変化に強い経営体質構築が課題</b>と捉えております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>中長期経営計画2029推進による事業の変革</b></li> <li>▶ <b>顧客との関係強化、産学連携の強化</b></li> </ul>
	市場認知度・評価の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式市場やステークホルダーの皆様に<b>適正にご評価いただくための体制強化や活動が課題</b>と捉えております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化</b></li> <li>▶ <b>IR、PR活動の充実</b></li> </ul>

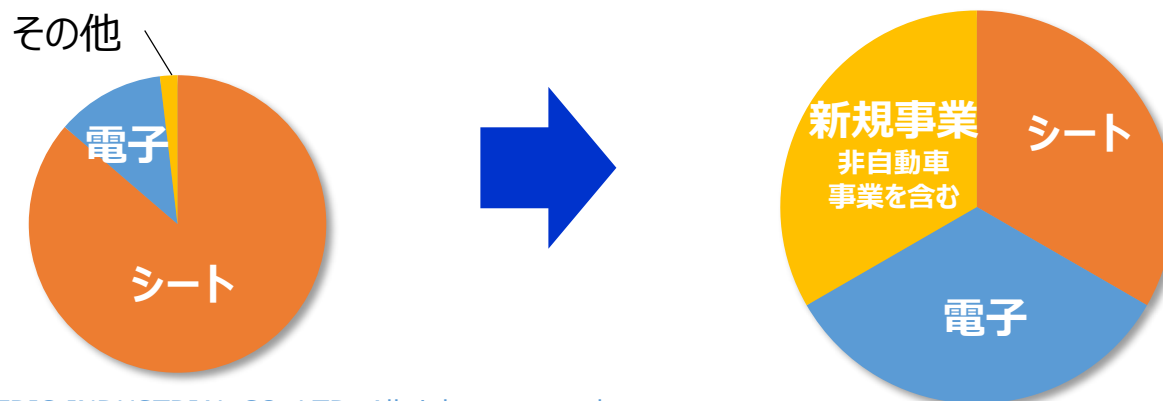
### ① 中長期経営計画2029推進による事業の変革

#### ①-1 中長期経営計画2029の概要

▶ 事業環境の変化の中でも、持続的に成長・発展させるため

- ◆ シート・電装事業 : 資本業務提携による売上・収益の向上
- ◆ 電子事業 : 自動車の電子化の中、既存の制御系製品に加え省エネ・安全向上の製品領域へ事業拡大
- ◆ 新事業 : 既存の自動車以外の事業に加え、全く新しい事業を創出

「2つの事業領域で3つの事業を展開」することで事業成長を目指します





## ①中長期経営計画2029推進による事業の变革

### ①-2 中期経営計画の重点施策

▶重点施策に取り組むことで、持続的成長に向けた事業の变革を図ります。



## ①中長期経営計画2029推進による事業の変革

### ①-2 中期経営計画の重点施策

▶経営基盤を強化しながら成長戦略の重点施策に取り組みます。

		玉込め（中長期フェーズ1）			挽回転換（中長期フェーズ2）			成長復帰（中長期フェーズ3）		
年		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
成長戦略	シート電装	顧客との関係強化			既存OEM商権拡大			新規OEM商権拡大		
		コスト競争力強化・リソースのリアロケーション						高収益製品比率の拡大		
		部品加工・設備内製化推進、生産・生産管理の自動化								
成長戦略	電子	新商品投入			既存OEM商権拡大			新規OEM商権拡大		
		生産・供給体制の構築						アライアンス強化		
		開発体制強化								
	新事業	開発・投資強化			新規事業確立			新規事業の成長		
	経営	ESG経営の推進								

## ②顧客との関係、産学連携の強化

### ▶各事業の成長に向けて、基盤の強化を図ります。

事業	内容
シート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の主力事業であるシート事業において、テイ・エス テック株式会社と資本業務提携を締結しました。 協業活動により、両社のシナジーを最大化するようを推進しています。</li> <li>・シートアジャスタの基本となるコア部品に関しては、コスト10-20%・質量10%改善した新世代コア部品を上市して行きます。</li> <li>・生産においては、汎用ロボットラインによる生産をグローバルに展開し、原価改善を図りコスト競争力を強化するとともに収益性を高めます。</li> <li>・新世代コア部品を織り込んだシートアジャスタを、既存のお取引先へ提案し引き続き良好な取引を維持し、新規お得意先の獲得に努めます。</li> </ul>
電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御系ユニットに加え、パワエレ・安全領域の製品も量産を開始しました。</li> <li>・次世代自動車の潮流である「電動化」は、飛躍的な拡大が期待される分野であり、技術開発を強化します。</li> </ul>

事業	内容
電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これら技術開発力の強化に向け、テクニカルセンターの増設・開発ツールの導入を行いました。また開発人員も現在の4倍程度まで増員します。</li> <li>・電気駆動システムの開発については、当社の重要お得意先と企画段階から連携しながら取り組んでおります。</li> <li>・電子事業の更なる成長に向け、開発・生産基盤を強化して行きます。</li> </ul>
新事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の福祉事業・ハーネス事業・画像事業に加え、自動車以外の領域で新たな事業を創造・育成・成長させます。</li> <li>・新たな事業において、「人々のQoL（Quality of Life：生活の質）向上、健康増進への貢献」を理念とし、無動力歩行支援機「aLQ」で得た歩行に関する知見を活かし、「人生100年時代」の中で「健康寿命」をサポートする事業開発を行います。</li> <li>・事業化にあたっては、国内外のパートナーと産学連携して推進しています。</li> <li>・また既存事業である、福祉事業においても「スポーツ義足」の販売を開始、画像事業においては新たなカメラの上市を推進しています。</li> </ul>

③ ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化

③-1 ESG経営の推進

▶ ESG経営を推進することで、透明性の高い経営・事業運営を進めます。

IMASEN Sustainable Plan 2030  
～地球とIMASENを継続可能にする～

**E** Environment - 環境 -

- 気候変動への対応
- 環境マネジメント体制の構築
- 資源の有効活用
- ペーパーレス化推進による森林保護



**S** Social - 社会 -

- 自動車社会変化への対応
- 誰もが働きがいを感じる環境整備
- 社会に寄り添う品質、技術の確立
- 社会との共生に資する活動



**G** Governance - ガバナンス -

- 公正、公平な経営体制
- リスクマネジメント体制



③ ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化

③-2 製品提供を通じた社会実現

▶ 自動車の「電動化」に貢献する製品提供により、サステイナブルな社会への貢献を目指します。

サステイナブルな社会

カーボンニュートラル、気候変動などの社会課題への対応

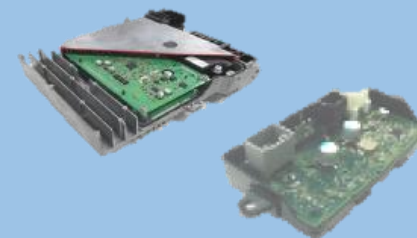


製品提供



さらなる「軽量化」により  
「燃費効率」に貢献

シート



「独自の高効率化技術」により  
「電動化」に貢献

電子

## ③ ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化

## ③-3 コーポレートガバナンス・コードへの対応

▶ **プライム市場で求められるガバナンス水準を充たしてまいります。**

NO	原則	取組
1 - 2 ④	少なくとも機関投資家向けに議決権電子行使プラットフォームを利用可能とすべき	対応済み (19年から)
3 - 1 ②	開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべき	順次対応済み (17年から主要項目、今後も拡大)
3 - 1 ③	気候変動に係るリスク及び収益機会が自社の事業活動や収益等に与える影響について、必要なデータの収集と分析を行い、国際的に確立された開示の枠組みであるTCFDまたはそれと同等の枠組みに基づく開示の質と量の充実を進めるべき	実施に向け取り組みます
4 - 8	独立社外取締役を少なくとも3分の1（その他の市場の上場会社においては2名）以上選任すべき	対応済み (21年から)
4 - 10 ①	各委員会の構成員の過半数を独立社外取締役とすることを基本とし、その委員会構成の独立性に関する考え方・権限・役割等を開示すべき	対応済み (18年から)

### ④ IR、PR活動の充実

▶ **当社の市場認知度・評価の向上に向けて取り組みます。**

#### ◆ 情報開示の充実

投資家の皆様や各ステークホルダーの皆様に、当社の経営状況や取組を知っていただくため、情報開示の強化を進めてまいります。

その一環として、21年6月に当社ホームページをリニューアルしています。

今後も積極的な情報開示に努めてまいります。

#### ◆ 対話の推進

決算説明会や四半期毎の機関投資家との面談を継続的に実施すること、IRフェア等に積極的に参加することで、ステークホルダーの皆様に対するアカウントビリティを果たしてまいります。



- ・本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。  
複製及び無断転載はご遠慮下さい。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社 今仙電機製作所

グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>

( 参考 ) ホームページ掲載  
「中長期経営計画 2029」

<https://www.imasen.co.jp/ir/policy/plan/>

# 中長期経営計画2029 – Trust & Challenge –

2012年4月にスタートした経営計画“Dream2020”が2021年3月に終了しました。

売上は順調に拡大し1,000億円企業に成長しましたが、売上拡大に伴う投資・固定費の増大により利益率は低下しました。

2021年4月に新たな「中長期経営計画2029」を策定し、活動をスタートしました。

大きな事業環境の変化の中にあることから、経営理念も刷新しました。「社会に選ばれる企業」になる事で、持続的かつ永続的に成長する企業を目指します。永続的な成長のためには、社内・お取引先・社会との信頼関係、また常に新しいことに挑戦し続ける姿勢が必要なことから行動指針として「Trust & Challenge – 信頼と挑戦 –」を定めました。

経営理念
「信頼される企業」、 「挑戦し続ける企業」であることで 「社会に選ばれる企業」になれ

行動指針 合言葉
Trust & Challenge – 信頼と挑戦 –

## 長期会社目標 – 持続的成長に向けた事業の変革 –

今後発生し得る社会・事業環境の変化の中でも、持続的にIMASENを成長・発展させるには

- シート・電装事業は、現在の事業規模を更に拡大
- 電子事業は、自動車の電子化の中で事業拡大
- 開発センターと国内関係会社により自動車以外の新事業の創出

を行い、事業の多様化が必要です。

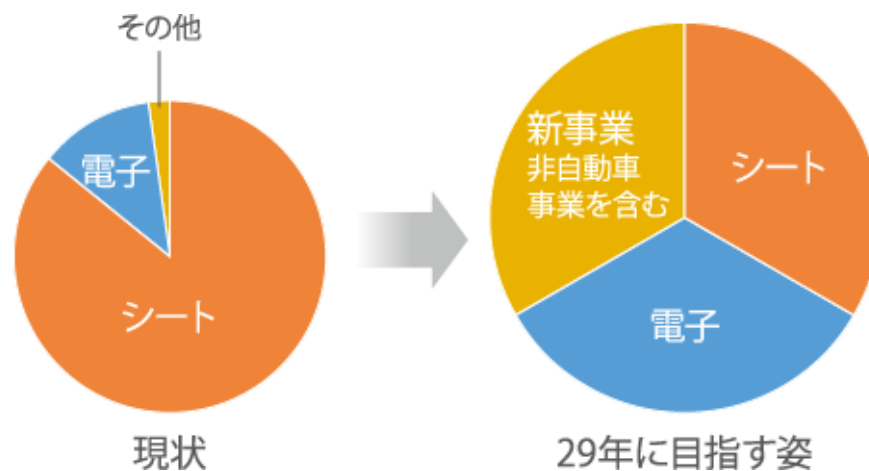
2029年には、これら3事業が比肩しバランス感のある「3本足の事業展開」を目指して行きます。

長期目標を達成するため、2029年までの9年間で3年ごとの中期フェーズごとに目標を定め展開して行きます。

2021年を初年度とするフェーズ1においては、新しいIMASENへの変革を意味する「新しい今仙への挑戦」をテーマと定め、ESG経営を推進し経営基盤をより強固なものにします。各事業本部は、2029年に目指す姿に向けた第一歩をスタートします。

フェーズ2では、新しくなったIMASENが更に挑戦を継続します。電子事業は先行投資の回収と再投資、新事業は事業の確立と採算化、これらにより企業規模拡大を目指す「新しい今仙の挑戦」をテーマとします。

最終となるフェーズ3では、更に挑戦を続けることで電子事業・新事業がシート事業に比肩するようになり、安定感のある売上構成、高収益体質への成長を目指す「今仙の更なる挑戦」を推進します。



# 中長期経営計画「新しい今仙への挑戦 —Challenge to New IMASEN—」

フェーズ1（2021～23年度）においては、持続的成長に向けて事業を変革させるべく「新しい今仙への挑戦」を推進し、強固な事業基盤を構築します。

各セグメントにおける目標・重点施策は以下の通りです。

---

## シート・電装事業 [ 事業基盤の強化 ]

---

- テイ・エス テック株式会社との資本業務提携による共創活動を推進します。
- 競争力のある新たな製品を市場へ投入することで、新規お取引先の獲得、新規受注の拡大を推進します。
- 生産方式を大きく見直すことにより、高い品質を確保しつつも加工費を抑制し、収益力のあるモノづくりを進めます。

---

## 電子事業 [ 持続的成長に向け資本を投入 ]

---

- 今後の事業拡大に向け2021年5月に広島工場内に第2テクニカルセンターを竣工しました。
- また、電子製品に求められるEMC（電磁環境両立性）評価の設備等も導入し、製品開発スピードを大幅に向上させます。
- 自動車に搭載される電子製品は年々増加しています。地球環境に貢献する省エネルギー製品や万一の事故発生時に乗員の安全確保に寄与する製品の開発を推進します。

## 新規事業 [ 第3の柱となる事業の創造 ]

---

- 2017年に発売した無動力歩行支援機「アルク（aLQ）」の事業活動を通して習得した知見を活かし「歩く」を科学することで、健康寿命の長期化と生活の質を高める事業を新たに創造します。
- グループ内に保有する画像処理技術とのシナジーを追求し新たな事業を創造します。
- 自動車に搭載される電子製品は年々増加しています。地球環境に貢献する省エネルギー製品や万一の事故発生時に乗員の安全確保に寄与する製品の開発を推進します。

## 経営基盤強化 ESG経営の推進

---

- 環境（Environment）  
地球環境に貢献する製品の開発を進めるとともに、ライフサイクルアセスメントの観点から生産工程の改善検討を進めます。  
社内活動として今仙版SDGs（ISP2030）「地球とIMASENを持続可能にする」を策定し、21年度から推進・展開しています。
- 社会貢献（Social）  
平等で明るい職場を築くと同時に、国内拠点・海外拠点および関係子会社を通し、社会貢献を推進します。
- 企業統治（Governance）  
発生の未然防止・軽減を含むリスク管理体制、関係法令のみならず社会通念をも含むコンプライアンス体制を更に強化して行きます。また、資本効率を意識した経営を推進します。